

学校名 鈴鹿市立鼓ヶ浦小学校

学校長名 内山 睦之

## 令和2年度 校内研修実施計画書

### 1 研究主題及び教科

研究主題	自分の考えをもち、なかまとともに高まろうとする子どもの育成 ～学び合う算数の授業づくりを通して～
教科・領域	算数科

### 2 主題設定の理由

昨年度まで、学び合いを通して互いの信頼関係を築きながら個々の児童の算数の力をつけていくことをねらいにして、授業実践及び授業改善に取り組んできた。研究を進める中で、友だちのがんばりを見守ったり、意見に耳を傾けたりすることができる児童や、ペアやグループでは、考えを言ったり聞いたりしやすいと感じている児童が増えた。また、「めあて」と「振り返り」を必ず入れた授業を行い、授業の流れの中に位置づけられるようになった。一方で、以下の課題が見えてきた。

- 自分によいところがあると感じている児童が少ない。
- 自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることが苦手と感じている児童が多い。
- 家庭学習の習慣が定着していない児童がいる。

というような姿である。

このような児童の実態から、自他を大切にできる児童、自分の考えをもち主体的に学ぶことができる児童を育てたいと考えた。そこで、本校のめざす子ども像である「心豊かな子」「学ぶ子」を育成するため、研究を進めていくこととした。「心豊かな子」とは、自分によいところがあると感じ、他者も大切にできる子、学習に自信をもち将来の夢や目標をもてる子、「学ぶ子」とは、自ら学び、考えて行動する子、例えば、実生活で問題が発生したときに、なかまとともに解決法を出し合って解決していける子と考える。

算数科は、一つの解に対して多様な考え方ができ、なかまとともに試行錯誤をして解を導くことができる。また、分からなかったことが、これまでの知識のつながりやなかまとの対話を通して、「わかった」という達成感を得ることができるというおもしろさがある。本年度も、算数科を教科の中心に据え、研究に取り組んでいく。

### 3 研究の方法

#### (1) 研究の目的

確かな学力を育む教育活動を進めることによって、「心豊かな子」「学ぶ子」を育てる。

#### (2) 児童の実態把握

- ・全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの分析で、強みと弱みを把握し、系統的な指導を行う。分析結果をもとにして、研究授業の単元を設定し、児童が自ら学ぼうとする意欲をもち、なかまとともに考える楽しさやわかる喜びが味わえる学習内容の工夫に取り組む。
- ・算数アンケートを実施し、指導計画に生かしていく。6月と12月の2回実施し、比較する。
- ・レディネステストを実施し、児童の既習事項の定着度をつかみ、授業に生かす。
- ・「三重の学V i v aセット」や「わかる・できる育成カリキュラム」を活用する。

#### (3) 具体的な取組

##### ①学力向上の推進

<学力向上の核となる児童を中心に据えた授業づくり>

- ・学習に意欲をもつことが難しかったり、学力が厳しかったりする児童を「学力向上の核となる児童」として授業の中心に据え、すべての児童が意欲的に参加できる学習活動や、「学びをあきらめない、あきらめさせない」学習活動を展開する。
- ・「学力向上の核となる児童」をとらえるときには、学習意欲を奪っているものは何か、学力の厳しさはどこから来ているのかという背景をしっかりとつかむようにしていく。また、周りの児童との関わり合いを大切にしたい授業づくりを進める。
- ・指導案の「児童について」で「学力向上の核となる児童」を設定し、その子の学力の状況や背景、手立てを記述する。

##### ②学習規律の確立

<「めあて」と「振り返り」の深化研究>

- ・「今日の授業では、何を学ぶか」というねらいをもって、めあてを提示する。
- ・掲示物「振り返りのポイント：①わかったこと・わからなかったこと②役に立った考えや方法・友だちから学んだこと③学習したことを生活の中から見つける」を活用する。

<主体的・対話的で深い学びがある授業>

- ・“「主体的・対話的で深い学び」をめざす授業の10カ条”を活用する。それぞれの授業で大切にしたいことを明確にして手立てとする。指導案には、本時で活用する手立てを明示する。

##### ③家庭学習と自主学習（ステップアップ学習）の習慣化

- ・「家庭学習の手引き」をもとに、学年×10分以上の家庭学習をさせる。
- ・自分の力に合わせて、宿題以外に苦手な内容や力をつけたい内容について自主的に取り組むステップアップ学習の充実と定着を図る。通信で見本となる児童のノートを紹介し、保護者の協力を得られるようにする。
- ・保護者の協力を得て点検活動（6月・11月・1月）を実施する。合わせて、ノー・メディア・デーの取組、読書の取組も行う。

④基礎学力の定着

<読書活動の推進>

- ・朝の15分間読書タイム（モジュール学習がない日）を設定する。
- ・ステップアップ学習でも読書を勧める。
- ・ボランティアや教師による読み聞かせを実施し、読書活動の充実を図る。

<はげみ学習>

- ・4・5・6年生の学力が厳しい児童を対象に補充学習（年間5回・火曜日6限目）を実施する。全教師の指導と学習ボランティアの支援を得ながら、算数の基礎的な内容の復習に取り組む。

<夏休み補充学習の実施>

- ・学力が厳しい児童を対象に夏休みに実施し、1学期の復習に取り組む。

<学習環境の整備>

- ・ユニバーサルデザインに則った教室環境づくり
- ・落ちついて学習する習慣を身につけさせるために、学習用具の準備、発言のルール、チャイム席など、学校全体での統一事項（「よりよい学習を進めるためのてびき」）を設定する。
- ・「声のものさし」「聴き方・話し方のルール」「学び合い学習のてびき」を掲示し、活用を進める。
- ・基礎的なことの定着を図ったり、学習したことを振り返ったりするために、教室に既習内容を掲示する。

4 年間研修計画

一 学 期	4月	本年度の研修（算数・人権）の方向性の検討 研修計画の作成
	6月	算数アンケートの実施・集約 家庭学習・生活読書強化週間の実施・集約
	7月	授業研究（算数）
	8月	全国学力・学習状況調査の結果の分析
二 学 期	9月～	全国学力・学習状況調査の結果を受けての取組
	10月～12月	授業研究（算数・人権）
	10月	鈴教研委託発表会に参加及び校内還流会
	11月	家庭学習・生活読書強化週間の実施・集約
三 学 期	12月	算数アンケートの実施・集約
	1月	家庭学習・生活読書強化週間の実施・集約 本年度の研修の振り返り
	2月	研修のまとめ、次年度の方向性についての話し合い
	3月	研究集録作成